

薬学トップランナー研究講演会

「田舎者の少年がどのようにしてラスカー賞の受賞者になったか？」

演者 森 和俊 先生（京都大学大学院理学研究科・教授）

日時：平成29年8月23日（水）15:00～16:30

会場：大阪薬科大学 D棟講堂

対象：本学教職員・学生・卒業生／大阪医科大学教職員・学生／高槻高校教職員・学生

（薬学トップランナー研究講演会について）

薬学にかかわる最先端の研究をされている先生をお招きし、お話をお伺いすることにより、本学教員の職能向上を図ることを目的として開催いたします。また大阪医科大学、高槻中学校・高等学校および本学が同じ「学校法人大阪医科薬科大学」となったことを踏まえ、各学校にもお声掛けすることとしました。先生方だけではなく、薬学および広く科学一般（生物学など）に興味のある学生さんにも興味を持っていただける内容だと思えます。ぜひご参加ください。

（森和俊先生の研究について）

タンパク質の形の異常は、様々な疾患にも関わってくる重大な事態です。私たちは色々な環境によってストレスを受けますが、細胞レベルでもストレスがかかるとタンパク質は異常な形になって不良品となる可能性があります。森先生は、その様な危機を回避するために、タンパク質の品質管理システムとして細胞がとるふるまいを明らかにされました。これを小胞体ストレス応答と呼んでいます。この仕組みの解明が先駆けとなり、今後小胞体ストレス応答の全容が解明されれば、種々の疾患の治療に有効な新しい方法論が確立されていくのではないかと期待されています。

<問い合わせ先>

- ・事務的なこと…大阪薬科大学 教務課 電話 072-690-1013
- ・講演内容に関すること…尾崎 恵一 本学FD委員長、基礎薬学教育研究センター教授
電話 072-690-1289 メール kozak@gly.oups.ac.jp

※事前申し込みは必要ありません。当日会場まで直接お越しください。

大阪薬科大学FD委員会、研究委員会 共催

(森 和俊先生について)



森和俊先生は、2014年9月にカリフォルニア大学のピーター・ウォルター氏とともに「小胞体ストレス応答の発見とその主要シグナル伝達経路の解明に関する研究」で、アルバート・ラスカー医学研究賞を基礎医学部門で受賞されました。

ラスカー賞は医学で主要な貢献をした人に与えられる、アメリカ医学会最高の賞であり、しばしば「アメリカのノーベル生理学・医学賞」とも呼ばれます。またノーベル生理学・医学賞の受賞者のおよそ5割は、それに先立ちこのラスカー賞を基礎医学部門で受賞しており、日本の誇るノーベル生理学・医学賞受賞者である山中伸弥氏や利根川進氏も同賞を受賞しています。

(ご略歴)

薬学博士。岡山県倉敷市ご出身。京都大学薬学部および同大学院で学ばれる。テキサス大学博士研究員、株式会社エイチ・エス・ピー研究所主任研究員、京都大学大学院生命科学研究科助教授などを経て現在は京都大学大学院理学研究科・教授。平成21年カナダガードナー国際賞、平成22年紫綬褒章、平成26年ラスカー基礎医学研究賞、平成28年恩賜賞・日本学士院賞を受賞。

大阪薬科大学キャンパス所在地・キャンパスマップ



所在地

〒569-1094

大阪府高槻市奈佐原4丁目20番1号

TEL: 072-690-1000 (代)

FAX: 072-690-1005 (代)

JR 京都線「摂津富田」駅又は阪急京都線「富田」駅下車後高槻市営バス「JR 富田駅」より4番乗場で「大阪薬科大学」行又は「公団阿武山」行で「大阪薬科大学」下車すぐ。

所要時間約15分